



粕屋町庁舎改修・増築工事 基本設計

概要版

令和8年3月

基本設計書 目次

1. 建築計画

1-1. 基本方針	01 ~ 03
1-2. 配置計画	04
1-3. 平面計画	05 ~ 08
1-4. 意匠計画	09 ~ 11
1-5. 断面計画	12
1-6. 環境計画	13
1-7. ユニバーサル・インクルーシブデザイン	14
1-8. 外構計画	15

A. 配置図・各階平面図

配置図（整備前）	A-01
配置図（整備後）	A-02
B 1階平面図（整備前）	A-03
B 1階平面図（整備後）	A-04
1階平面図（整備前）	A-05
1階平面図（整備後）	A-06
2階平面図（整備前）	A-07
2階平面図（整備後）	A-08
3階平面図（整備前）	A-09
3階平面図（整備後）	A-10

1-1. 基本方針

1. はじめに

本町は、人口増加が継続しており、近い将来において市制移行の基準となる人口 5 万人に達する推計がなされています。老朽化・狭隘化への対応に加え、市制移行を見据えた庁舎再整備の検討が必要です。

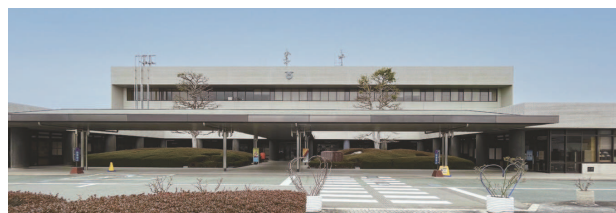
庁舎の整備においては、『粕屋町公共施設等総合管理計画（令和 4 年 3 月改訂）』における公共施設等の管理に関する基本方針「長寿命化の推進：施設の健全維持、できるだけ施設を長く使用することによる予算の平準化とライフサイクルコストの縮減を推進」に沿って検討を行いました。

2. 庁舎の現状・課題

現在の庁舎は、昭和 58 年（1983 年）に竣工し、令和 7 年（2025 年）現在で築 40 年が経過しています。内外装材や設備機器の老朽化、職員数の増加による執務スペースの不足、町民サービスの多様化・高度化に伴う機能向上が求められ、庁舎において様々な課題が見られる状況となっています。

昭和 56 年（1981 年）6 月以降に施行された新耐震基準に対応しており、築 40 年を経過した構造躯体である鉄筋コンクリートの劣化状況を調査し、健全性を確認することで、長く使い続けることが可能と判断しました。執務スペース不足などに対しては、適正な面積規模にて狭隘化を解消する方向で検討します。

① 建物の老朽化・経年劣化



外壁タイル：一部で割れやかけ



屋根防水層：一部ではがれ



室内の巾木：一部ではがれ

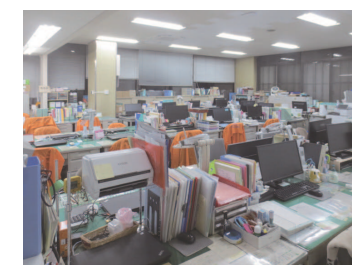
② 町民サービス・執務の機能の不足



窓口廻り：スペースの不足・機能性の課題



キッズスペースの不足・魅力向上の課題



執務室面積の不足

3. 基本理念

庁舎の現状と抱えている課題、町の上位計画との関係、将来の市政移行や社会動向などを踏まえ、町の将来目指すべき姿を示すものとして、以下の「基本理念」を定めます。

誰もが使いやすく、かすやの未来へつなぐ、エコ・スマート庁舎

4. 基本方針

庁舎の課題に対して、上位計画での位置づけを踏まえて、各課題への庁舎整備における対応の「基本方針」を次のように定めます。

誰もが使いやすく、快適なサービスを提供する庁舎

1.
 - 性別・年齢・障がいの有無を問わず誰もが利用しやすい
 - 使いやすいスペースの確保
 - 目的地と移動ルートが分かりやすい
 - サービスニーズの変化に柔軟に対応
 - 来庁者・職員にとって居心地のいい空間の提供

機能的で働きやすい庁舎

2.
 - 窓口と執務空間の機能的なゾーニング
 - 快適な執務環境の確保（光・温度・湿度・音）
 - 来庁者と職員のエリア区分
 - IoTの最大限活用
 - 必要機能とスペースの確保

将来の変化に柔軟に対応でき、適切なコストにより整備・維持できる庁舎

3.
 - 市制移行や組織再編への柔軟な対応
 - 維持管理費の低減への考慮
 - 長寿命化への対応
 - 必要ないものを省いたシンプルなつくり
 - DX・高度情報化への対応

人と環境にやさしい庁舎

4.
 - カーボンニュートラル実現を牽引
 - 自然素材の活用
 - GXの推進
 - 省エネ・自然エネルギーの活用
 - 地域産材の活用
 - 感染症対策の配慮
 - インクルーシブデザインへの実践

周辺環境と調和した粕屋町らしさが感じられる庁舎

5.
 - 粕屋らしさの創出
 - 落ち着きがあり親しみやすい外観
 - 既存の良さを活かす
 - 周辺環境との調和
 - サンレイクかすや、かすやこども館、かすやドーム、駕与丁公園との連携

防災・防犯・情報セキュリティを強化した庁舎

6.
 - 高い耐震性の確保
 - 個人情報を守る情報セキュリティの確保
 - 災害時の防災拠点機能の確保
 - 室内外の防犯機能の充実
 - 災害時の機能維持と迅速な支援・復旧活動

5. 基本計画の整備項目と対応した基本設計の計画

基本計画における整備項目をもとに、基本設計における新たな庁舎への導入機能を整理します。

① 町民サービス



- ・明快なフロア構成
- ・利便性の高い窓口・待合の環境

② 執務環境



- ・効果的なゾーニングと機能配置
- ・執務形態に柔軟に対応できるレイアウト

③ 議会機能



- ・フレキシブルで利用しやすい構成
- ・町民に開かれた議場の整備

④ 防災拠点



- ・災害時に業務を継続できる整備
- ・災害復旧の長期化への備え

⑤ 環境配慮



- ・自然エネルギーの活用
- ・省エネルギーな施設の実現

⑥ インクルーシブデザイン



- ・全ての人にやさしい環境の整備
- ・多様な利用者に配慮した機能配置

⑦ 町民交流



- ・町民のための共有スペース
- ・まちの拠点となる意匠計画

⑧ 防犯・情報セキュリティ



- ・安全・安心への配慮
- ・日常・時間外の施設管理計画

⑨ 高度情報化（DX化）



- ・DX化を見据えた建築計画
- ・DX化を見据えた設備計画

6. 庁舎の将来像

「かすやのトリコ」となり、永く愛される庁舎を目指します

来る人のトリコ



快適で安心な居場所をつくります。

庁舎や周辺施設を訪れた人が気軽に立ち寄ることができ、人々の生活のよりどころとなる空間を整えます。

働く人のトリコ



機能的で柔軟な執務空間を整備します。

働く人が快適に業務を行うことができ、将来の変化にも対応可能な、居心地の良い空間を整備します。

まちのトリコ



環境に配慮し、未来を創造します。

緑豊かな自然に溢れる魅力を活かし、まちの景観に配慮した、未来への成長のきっかけとなる環境を整備します。



1-2. 配置計画

1. 敷地・建物概要

改修・増築による新しい庁舎整備にあたり、周辺も含めた敷地と既存建物の条件を整理します。

敷地概要

計画地	福岡県糟屋郡粕屋町駕与丁一丁目5番他
用途地域	第一種住居地域（第二種15m高度地区）
防火指定	指定なし
敷地面積	22,435㎡
指定建蔽率	200%
指定容積率	60%
主要道路	南側：町道 幅員12.50m

建物概要（既存建物の内容）

構造	鉄筋コンクリート造
階数	地下1階、地上3階建て
最高高さ	15.15m
耐火性能	耐火建築物、耐火構造
耐震安全性	新耐震基準（1981年）準拠
建築面積	2,943.51㎡
延床面積	5,748.71㎡
建蔽率	13.12%
容積率	25.62%

敷地周辺広域図



出典：国土地理院

2. 増築位置の方針

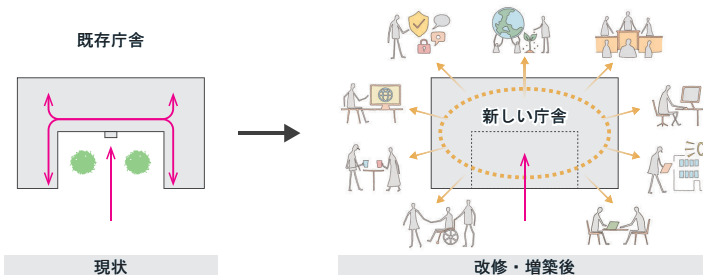
増築の位置については、基本構想・基本計画書にてA案（北側駐車場部）、B案（南側前庭部）、C案（南東側別棟）を比較検討の候補としていましたが、基本設計にて、粕屋町の庁舎として9つの整備項目を総合的に実現できるB案（南側前庭部）に決定する方針とします。

増築位置案の比較検討（基本構想・基本計画書の抜粋）

検討案	A案	B案	C案
概要	北側 駐車場部 同一棟増築	南側 前庭部 同一棟増築	南東側 別棟増築（渡り廊下接続）
増築規模	地階1層駐車場+地上2階	地上1階	地上2階
配置イメージ			
既存部			
増築部			

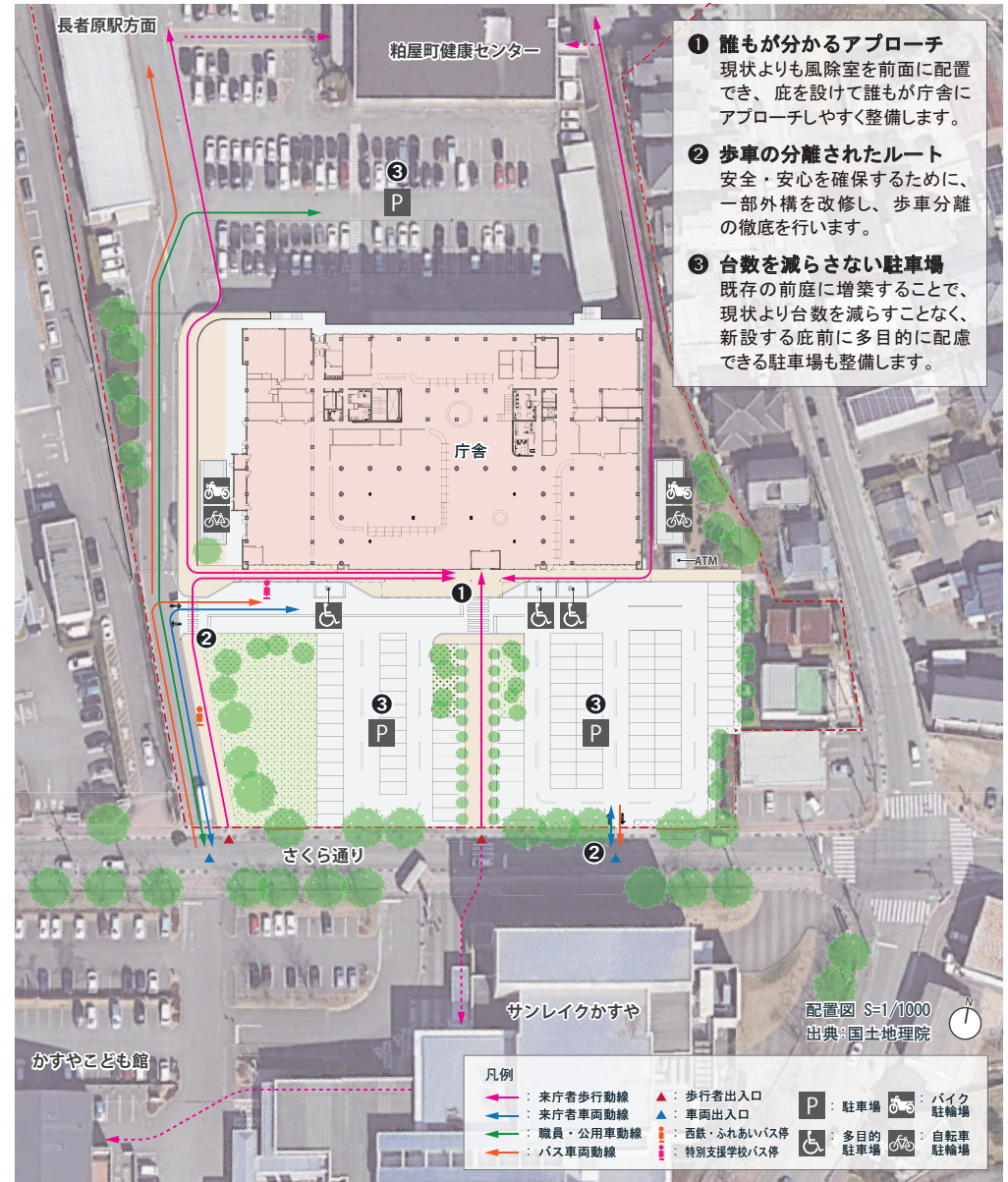
前庭に増築を行うことにより、既存建物と一体化して、1階をワンフロアとして整備します。

使う人々が分かりやすく、使いやすい環境にすることができ、9つの整備項目をすべて実現する新しい庁舎をつくれます。



3. 動線計画

来庁する歩行者や様々な車両が安全・安心に利用できる動線を整備します。庁舎の敷地内だけでなく、道路向かいにあるサンレイクかすや、かすやこども館の周辺施設とのつながりも考慮した計画を行います。



1-3. 平面計画

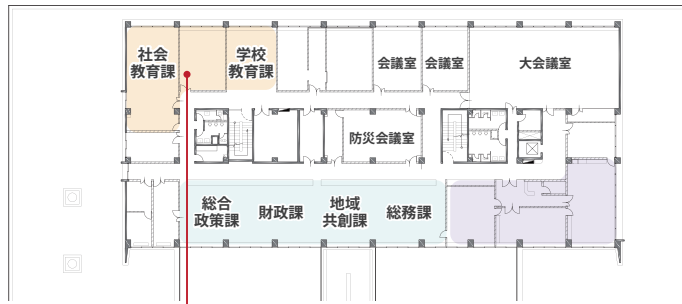
1. 各部署のゾーニング

改修・増築後の拡張したワンフロアを中心に、町民サービスや執務環境を改善する各部署のゾーニングを再構成します。特に現状の改善点である、町民が一番利用する住民課 / 福祉 / 子育て・教育の主要3部の分かりやすさ、粕屋町の特徴でもある子育て・教育関係のまとまりなど、将来の市政化を見据えた粕屋町に適した配置を計画します。

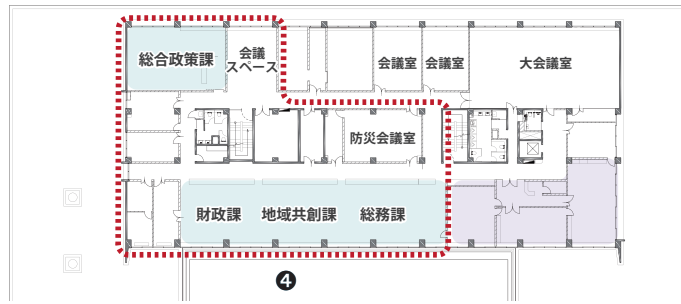
配置図 S=1/600



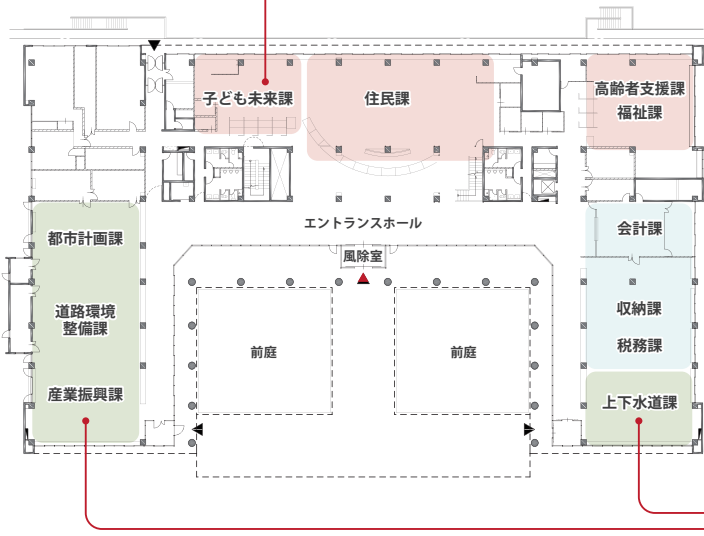
凡例					
▲	: 出入口	■ (赤)	: 住民福祉部	■ (緑)	: 都市政策部
◆ (赤)	: 主要動線	■ (黄)	: 教育部	■ (青)	: 総務部



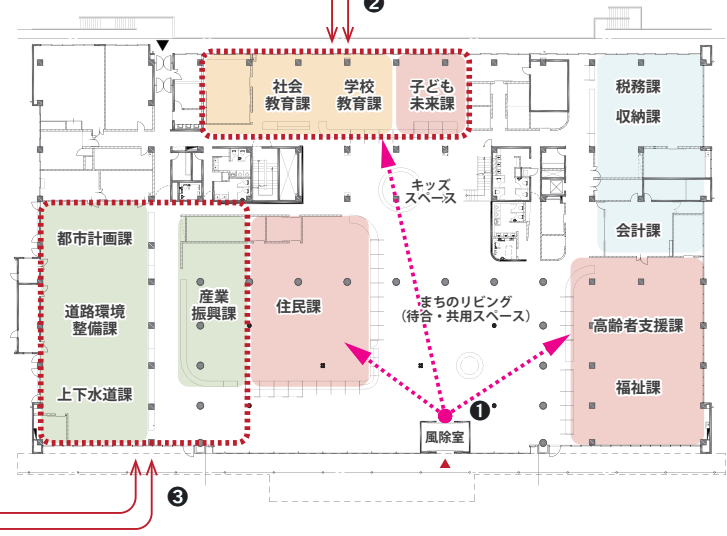
2F



2F



1F



1F

整備前

整備後

① 主要3部の分かりやすさ

町民が一番利用する住民課、福祉課・高齢者支援課、子ども未来課・教育委員会の主要な3部を、庁舎に入ってすぐに分かる位置に配置します。

町民に分かりやすく、職員の連携も強化でき、将来を見据えた必要な大きさも確保することで、より良い行政サービスを提供します。

② 子育て・教育関係のまとまり

1階と2階に分かれていた、子ども未来課と教育委員会を、1階にまとめて配置し、隣接してキッズスペースも整備します。

未就学・就学の子どもを連れた場合に、これまでの上下階に移動する負担を解消するとともに、住民課と隣接することで、さまざまな手続きの連携を強化します。

③ 都市政策部のまとまり

同じ1階に配置されていたが、距離が離れて分かれていた都市政策部の4課を、1か所にまとめて配置します。

都市政策の情報を確認に来られる関係業者が、必要な情報を各課相互に確認しやすく、相談や打合せが行いやすい計画とします。

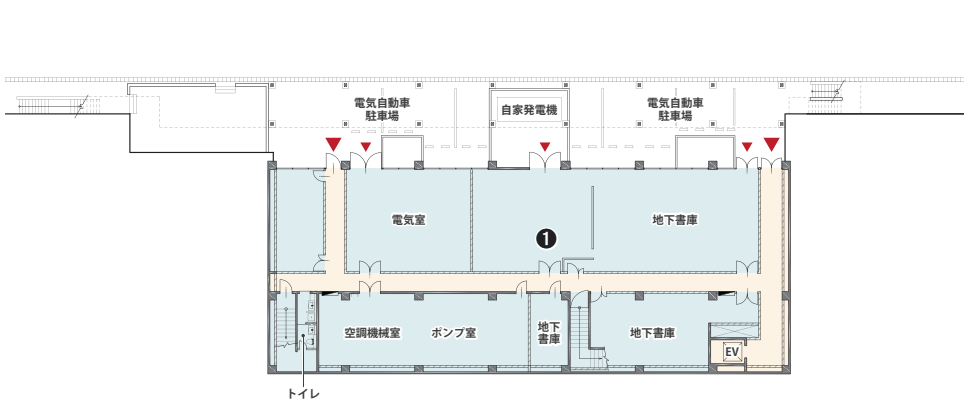
④ 2階 総務部の配置整理

4課に再編された総務部は、教育委員会を1階に移動したことで、空きスペースも含めてゆとりを確保できる配置に再整理します。

町長・副町長との連携、災害時の防災会議室を中心とした活動などが実施しやすいように配慮した計画とします。

4. 各階の平面レイアウト

B1階～3階のすべての階を、町民や職員が分かりやすく・使いやすい環境づくりを行います。



① 更衣室・休憩室

現状1階にある更衣室・休憩室は、職員数の増加によりスペースが不足しているため、B1階も含めて、男性・女性の更衣室・休憩室の改修を行い再整備します。

② トイレ

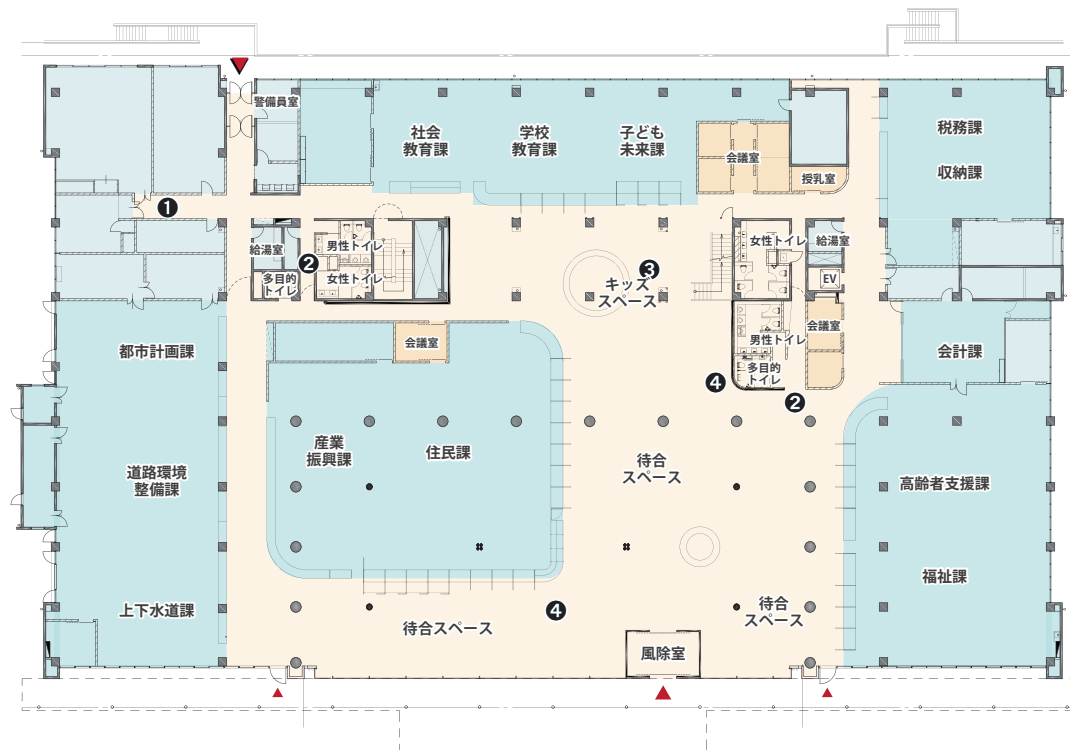
各階ともに、現状分りにくく、狭いため、全てのトイレを改修します。1階は町民の利用が多いため、男性・女性ともに器具数を増やし、多目的トイレの整備も行います。

③ キッズスペース

子ども・教育関係の窓口前に、子ども連れの待合や休憩ができるキッズスペースを整備します。庁舎出入口から正面に見え、周囲から見守ることができる安心した空間をつくります。

④ 展示コーナー・展示壁

庁舎出入口の横に展示コーナーを設け、町民が気軽に立ち寄り、外部からも見える配慮を行います。壁面展示できる展示壁も整備して、様々な町の情報を発信できる仕掛けをつくります。



B1F

1F

配置図 S=1/400



凡例			
▲	: 出入口	■	: 執務スペース
■	: サポートスペース	■	: 共用スペース
■		■	: 議会関係諸室

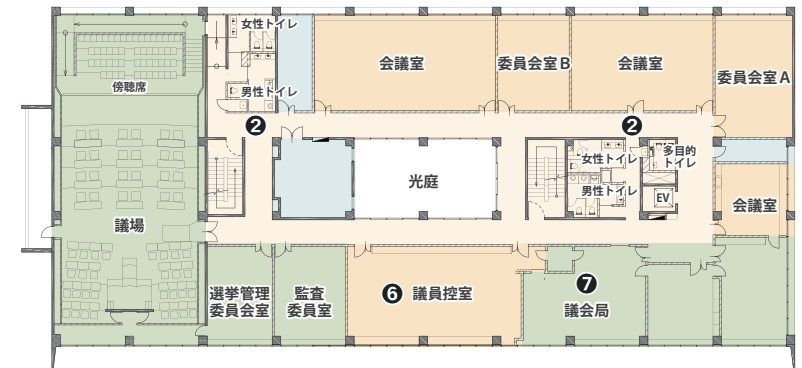
4. 各階の平面レイアウト

⑤ オープンな会議スペース

2階の改修により空いたスペースを、廊下と一体的でオープンな会議・共用スペースとして整備を行い、気軽に相談や打合せ、職員が休憩することができる空間をつくります。



2F



⑥ 議員控室

現状使いにくい控室を一部改修し、窓際のカウンター席やテーブル席を整備します。また、図書コーナーも再整備して、議員以外の方々も利用できるような空間をつくります。

⑦ 議会局

市政化を見据えて、将来の議会局の職員増加や議会時の対応しやすさを考慮して、執務スペースを拡張して再整備します。

3F

配置図 S=1/400



凡例					
▲	: 出入口	■ (light blue)	: 執務スペース	■ (orange)	: 共用スペース
■ (light blue)	: サポートスペース	■ (green)	: 議会関係諸室		

1-4. 意匠計画

1. 意匠方針

① 既存庁舎の魅力的な空間の再構成

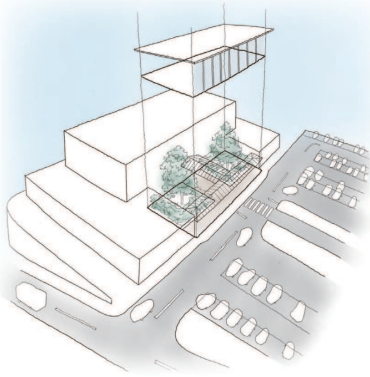
庁舎の敷地内及び周辺には町木のクロガネモチやサクラ、町花であるバラやコスモスといった豊かな自然が広がり、建物との一体感やつながりをつくっています。

前庭部分に増築を行う本計画においては、既存空間のもつ開放性や自然あふれる心地良さを庁舎の魅力として引き継ぎ、新たな価値を育んでいける施設として再構成します。



② 粕屋の未来を育む空間づくり

増築部分は既存前庭の広がりを活かしたワンルームの大空間とし、明るく開放感のある空間として整備します。空間の広がりや町として成長を表す樹形をイメージした構造体や内装仕上げ、設備機器など一体的に整備を行うことで、既存のクロガネモチを彷彿とさせる自然的な魅力に包まれた計画とします。



③ 魅力を継承する建築計画

まちづくりの基本理念である「太陽と緑のまち」に相応しい庁舎として、身近に自然を感じながら誇りと愛着を持てる空間を整備します。

庁舎の顔として周辺に表出するまちの新たなシンボルは、内外を連続的につなぐエントランスとなるとともに、粕屋町の未来への期待感を与える活動の場所となります。既存の面影を継承しながらも、働きやすく利用しやすい開かれた庁舎としての歴史をつくるデザインとします。



天井木質化のイメージ



木製造作家具のイメージ



既存庁舎の魅力的な前庭空間

整備前



広がりのあるワンルームの大空間

整備後の増築部イメージ

2. 内部デザイン

町民の集う施設として、誰もが利用しやすく、働きやすい庁舎としての機能面や安全面に配慮した計画とします。温かみのある木調仕上げを基調とし、自然エネルギーの活用も行いながら快適で豊かな空間づくりを行います。

①まちのリビング（待合・共用スペース）

- ・既存の前庭の広がりを受け継ぎ、ガラスの壁面及び木調仕上げの活用によって、明るく温かみのある空間を整備します。
- ・粕屋町の活動を広めるための展示コーナー及び展示壁を共用スペース内に新設し、地域住民への情報発信を行います。
- ・子ども連れの利用者も使いやすいように、窓口から目の届く位置にキッズスペースを設ける計画とします。
- ・共用部の什器は移動可能なものとするので、様々な活動に対応できる仕掛けづくりを行います。
- ・吸音性や防滑性に優れた床材を採用し、多様な利用者へ配慮します。

②窓口・執務エリア

- ・大きく開放的なワンフロア空間を活かし、明るい執務空間を創出します。
- ・窓口エリアに木調カウンターを整備し、執務エリアを目隠しする範囲まで什器を新設します。
- ・執務エリアは増築部の什器は新設とし、改修部は既存什器の転用により、経済性に配慮した計画とします。
- ・車いす利用者や高齢者も容易に手続きが行えるように、窓口はハイカウンターとローカウンターを組み合わせる形式とします。

④トイレ・更衣室・倉庫

- ・日常的な清掃管理のしやすいビニル系床材を採用します。
- ・防水性や更新性の優れた壁材や天井材を選定します。



空間の変化と温かみを与える木調パネル

子ども連れに配慮したキッズスペース

広がりのある樹形の構造柱

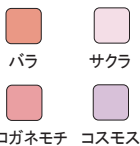
利用者に配慮したハイ・ローの木調カウンター

遮音性に優れ、車いすやベビーカーにやさしいタイルカーペット

エントランスからまちのリビングを望むイメージ

サイン計画

- ・増築部は天井が高く、改修部は柱が多いことから、天井吊り下げとせず、既存の柱型を活かした縦型サインを計画します。
- ・課ごとに誰もがわかりやすいように、粕屋町の町花のバラやコスモス、町木のサクラなどの色彩やシルエットによるデザインで構成します。



クログナメチ コスモス

まちの自然要素でカラースキームを構成



明るく開放的な待合・共有スペース



窓口近くに、みんなで見守ることのできるキッズスペース

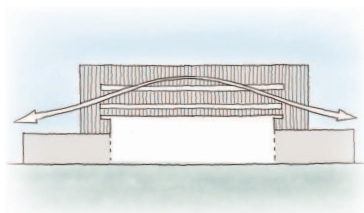


見通しの良いワンフロアの窓口・執務エリア

3. 外部デザイン

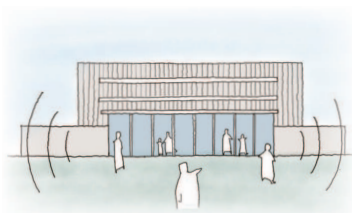


① 包み込むボリューム



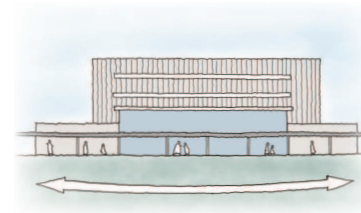
増築部分は架構による開放的で豊かな内部を包括する屋根により覆われ、まちの新たなシンボルとして、未来への期待感を与えます。

② 賑わい溢れるオモテ

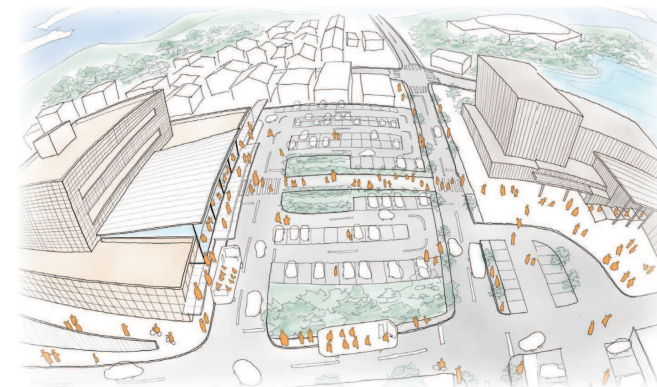


増築部はガラスカーテンウォールによるオープンな構成とし、内部の印象的な架構と人々の活動を外部に表出させます。

③ 周辺へつなぐ庇

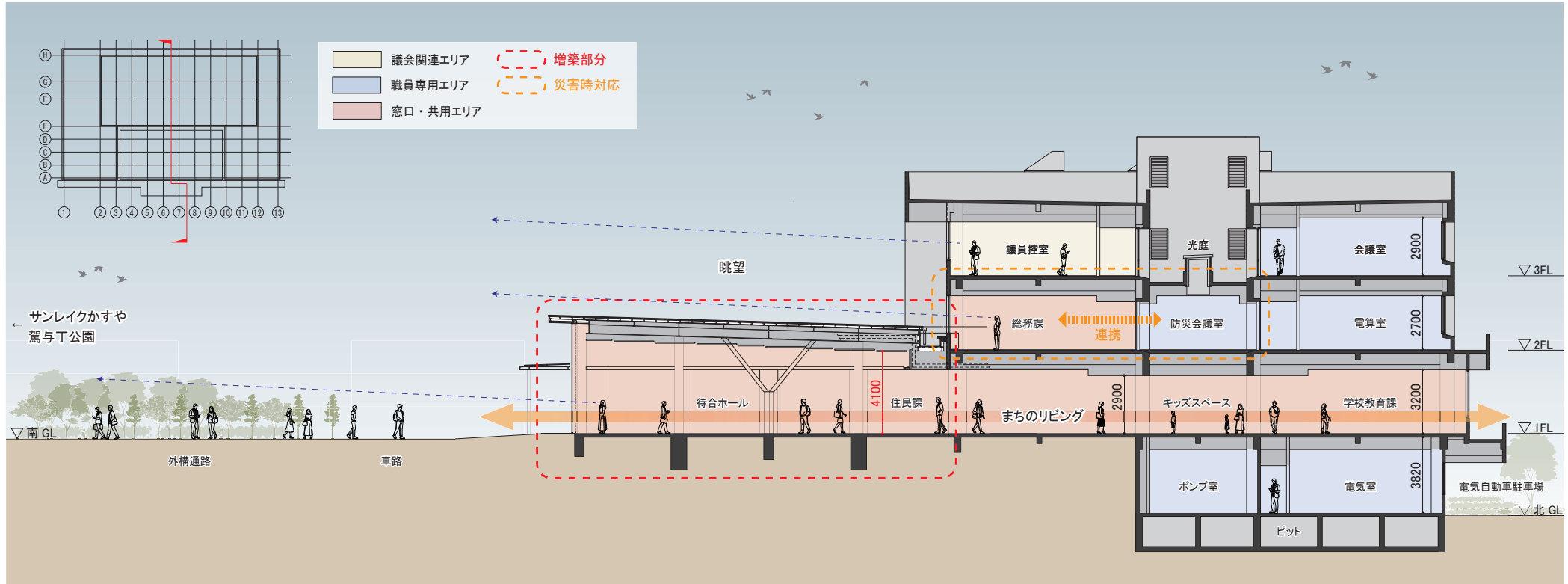


歩行者通路に設ける庇は内部へ適切な光を取り込むとともに、周辺施設と一体となりながら、このまちならではの景観をつくります。



増築・改修によって生まれ変わった庁舎は、まちの環境に馴染むとともに、人々の新たな生活の一部として永く愛される居場所となります。

1-5. 断面計画



1. 眺望と視認性に配慮した計画

- ・増築部は周辺からのアプローチとなる南側にガラスカーテンウォールを配置して庁舎にぎわいを表出させます。
- ・屋根は緩勾配とすることで2階部への圧迫感を無くし、2階の執務エリアからの眺望を維持します。
- ・災害時の拠点として、防災会議室及び執務エリアから外部の視線を確保して、対応しやすい計画とします。
- ・1階共用スペースは改修部を含めたワンルーム空間として利用者アクセスや視認性に配慮します。

2. 快適性に配慮した天井高さ

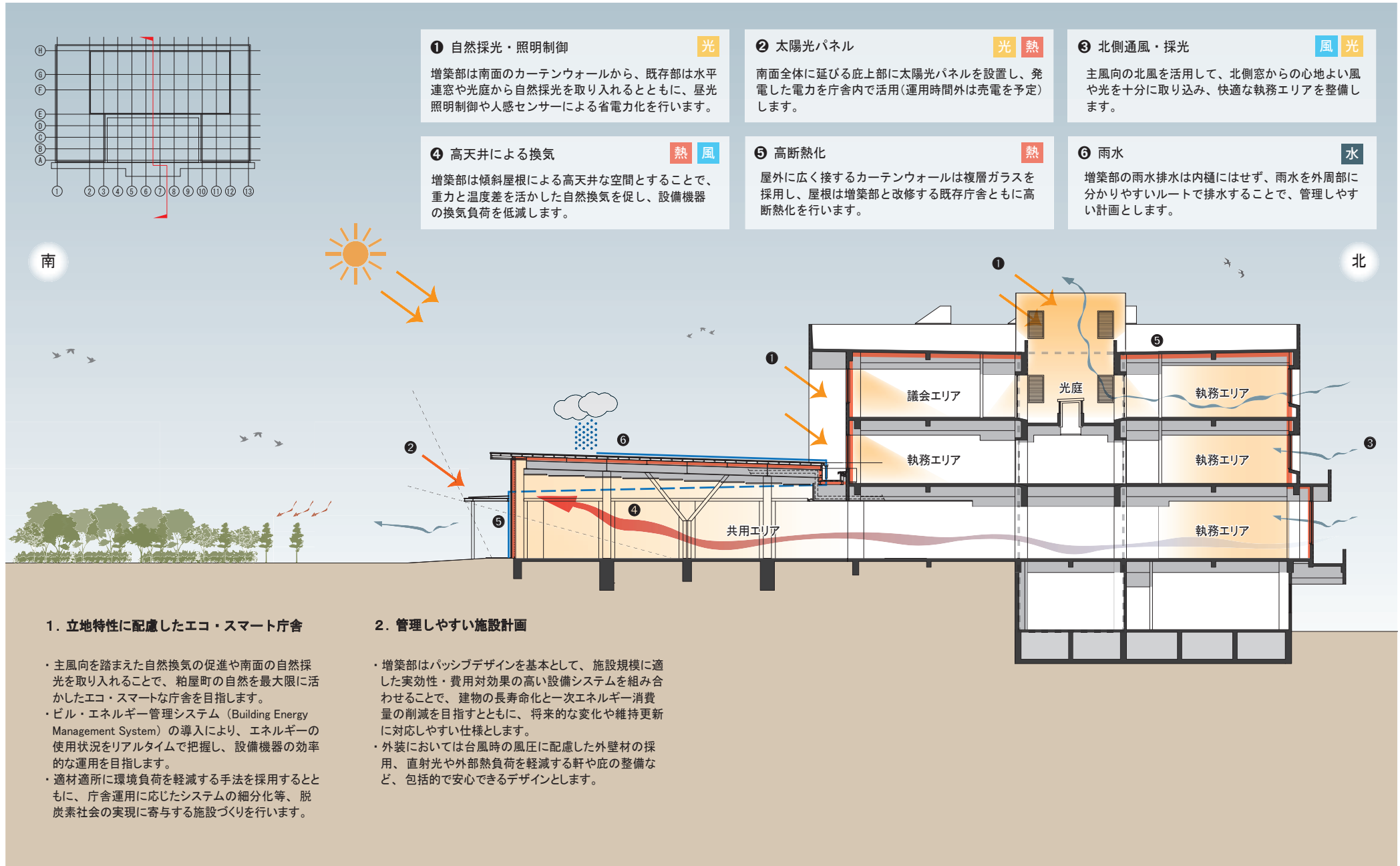
- ・増築部は共用エリアを含むエントランス部分の開放性に考慮して4,100mmの天井高さを確保します。
- ・執務エリアの床下は将来的なレイアウト変更に対応するためにフリーアクセスフロアとし、床スラブより100mmを確保します。



バス乗り場や多目的駐車場から雨に濡れないアプローチ



内部から駐車場や周辺施設まで見通しの良い計画



1-7. ユニバーサル・インクルーシブデザイン

1. 誰もが利用しやすい庁舎：バリアフリー・ユニバーサルデザインへの配慮

○アプローチ空間の快適性向上：

- ・正面玄関の前面に庇を設け、庇に面した車いす駐車場を整備します。①
- ・庇に面し、大型バスの退避スペースを設け、特別支援学校の送迎などに対応します。②



○誰もが利用しやすい動線・インフォメーション機能の整備：

- ・正面出入口近くの分かりやすい位置に「総合案内」を設けます。⑤
- ・出入口の内外は、自動扉レールをフラット化するなど、段差のない床面とします。③
- ・正面風除室前まで、点字誘導タイルで案内し、目の不自由な方や車いすの方などに考慮したインターホンを設け、総合案内などに連絡が取れるようにします。④



- ・総合案内カウンターは、ハイカウンターとローカウンターを併設し、子どもからお年寄りまで、だれもが気軽に立ち寄って、声を掛けやすい雰囲気のある場所とします。⑤



- ・フロア案内サインは、窓口ごとに色分けや番号付けを行うなど、分かりやすさを工夫します。また、文字の大きさや立体化による見やすさへや、英語などの外国語にも配慮します。⑥



- ・一般トイレ、多目的トイレや授乳室などのサインは、図や絵を用いたり、大きさ・色・立体感などを工夫し、子どもから高齢の方、外国の方など誰もが分かりやすく、利用しやすいようにします。⑦

2. インクルーシブデザインへの配慮

○インクルーシブデザイン：

「平均的な問題解決手法（ユニバーサルデザイン）では、対応できない、これまで見逃されていたニーズを含めて対応する包括的な計画・機能（デザイン）」

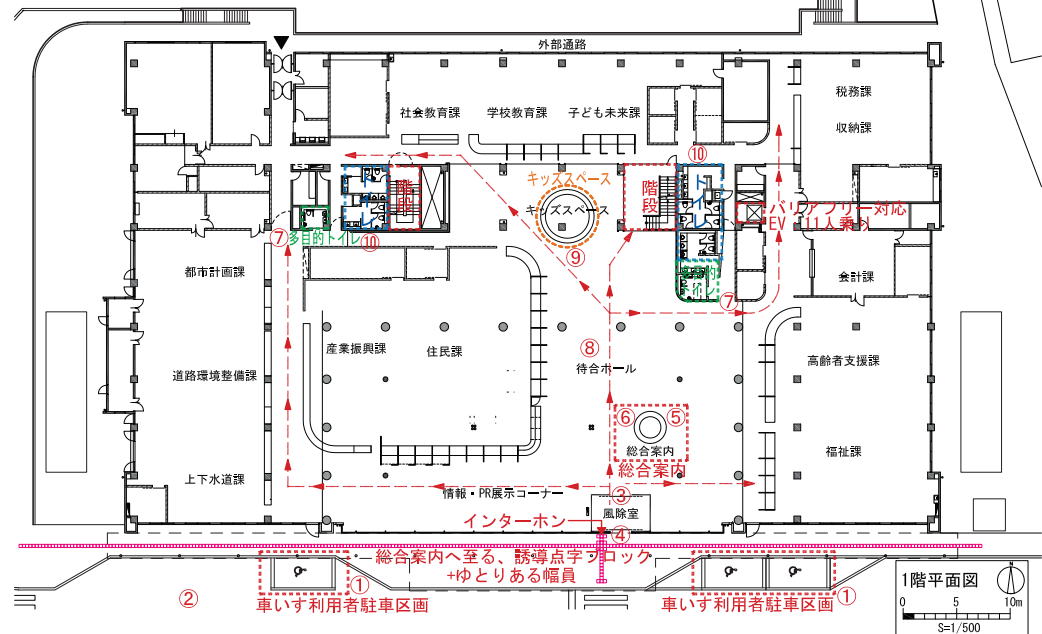
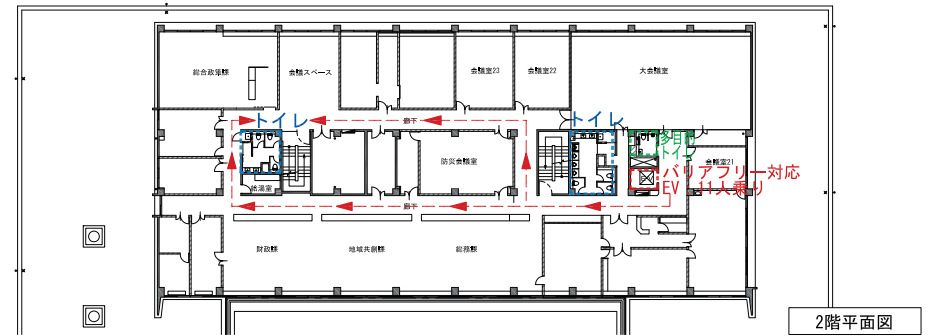
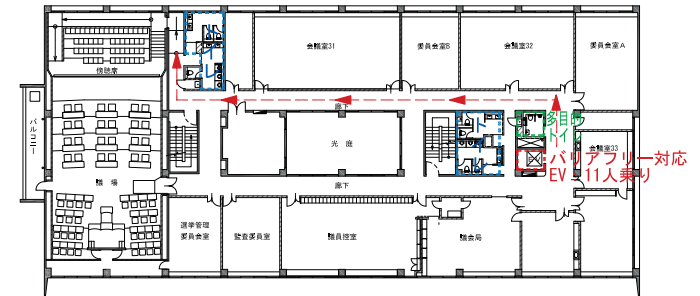


○庁舎整備の基本構想・基本計画段階では、町民の皆様のご多様なニーズを取り入れるために役場内設置のボックス投函や町ホームページでのアンケート調査を実施しました。その結果を基本計画において反映しています。

- 窓空間の明るさ、ゆったりとした空間の確保 ⑧
- キッズスペースの充実、子ども連れの方の快適性向上 ⑨
- トイレ水廻り空間の快適性向上 ⑩

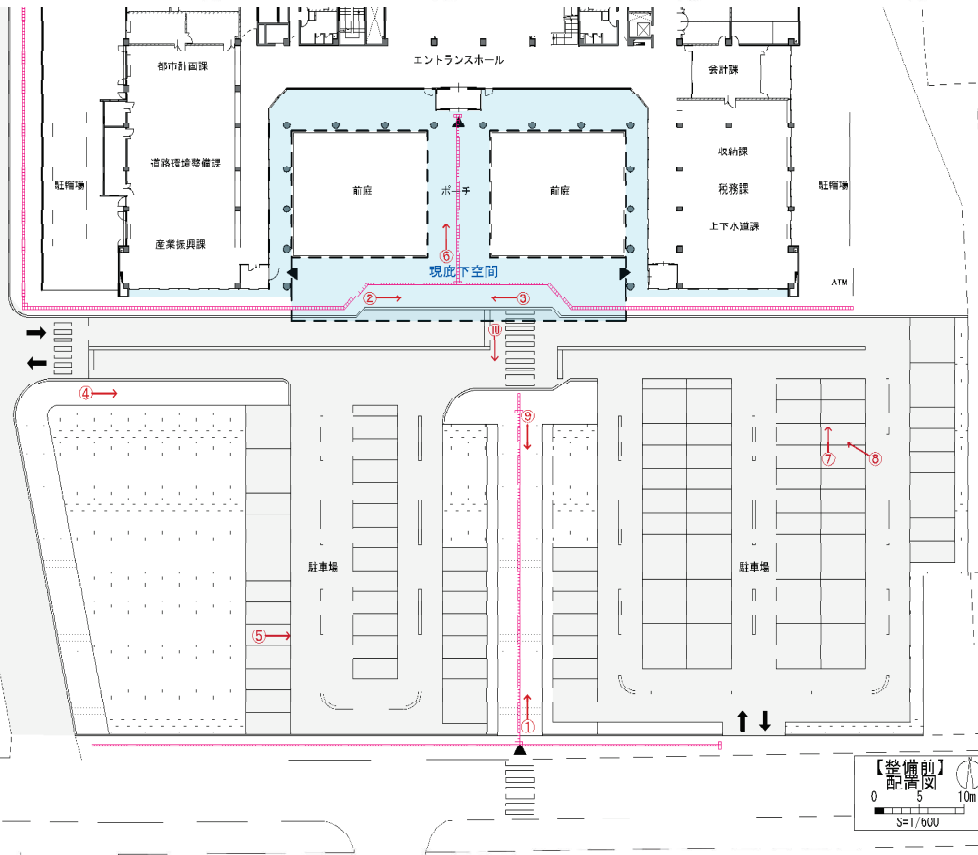


○実施設計においても、これまで見逃されていたニーズを含めたインクルーシブデザインの実践を検討します。



1-8. 外構計画

1. 外構現況



2. 外構整備方針

誰もが利用しやすく、快適なサービスを提供する庁舎として、

- 中央歩行者通路の正面にメイン出入口を配置
 - ・サンレイク粕屋の正面出入口との施設軸を揃え、一体的な街並み構成。
 - ・視認性の向上、相互の行き来のしやすさ向上。



- 増築棟前の外構舗装整備に伴う、誘導点字タイルの再整備



- 正面出入口前のゆったりとした玄関底下空間の確保：



- 正面出入口の直近に、玄関底に面した車いす駐車区画の確保：



- 大型バスの停車・乗降場を、敷地内車路からの退避スペースとして確保



- け吉止面足元廻りの舗装は、現住、割れが部分的に発生している磁器質タイル舗装から模様コンクリート舗装に更新

